

おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 9 号 (6 月 16 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新人チーム 昨年同様の船出

先日 6 月 13 日 (土)、山形市 (落合) スポーツセンターにて Y リーグ第 3 節が行なわれました。山東は県総体で全 3 年生が引退を決めたため、新人チームにて初戦に臨む。初試合ということもあり、期待とともに不安が募る。とはいえ、県総体第 2 ラウンド期間中、初日で敗れながらも宿泊を続けた山東は、観戦の合間に、大会運営に携わっていた最北地区の高校と真室川の芝にて練習試合を行っており、新人チームも大体のポジションの確認は済んでおりました。新チームになってから県リーグで怒涛の連敗を喫した去年の例から考えても、新チームがいきなりの勝利を狙うのはおこがましいのかもしれませんが、「このメンバーならもしかして・・・」と内心期するところがありました。

対戦相手は、県総体にしっかり照準を合わせてチームを構成し見事東北大会の切符を勝ち取った新庄東。とはいえ新東は、中心選手が数名欠ける苦しい布陣。選手にはかなり厳しい戦いになると釘を刺していたものの、ベンチでは「もしかして・・・もしかさせたい」と狙っておりました。メンバーはこれまで FW 登録だった 1 年**多田**を CDF で起用。試合が始まると、早速高さや速さのある多田と主将孝祐の両 CDF が安定した守備を見せる。また高さはないもののすばしっこさのある 1 年**嶋貴**が左サイドを抉り、早々にチャンスを出演。しかし得点には至らず。すると直後、DF ラインの一瞬の間を見逃さず 2 列目から駆け上がった選手を捕まえることができず、突破を許し、GK と 1 対 1。難なく決められ早々と失点。その後はミスが少ない新東が徐々に本領を発揮し、山東は中盤を支配される苦しい展開に。とりあえず何とか凌いで 0 - 1 で折り返す。

後半も、一進一退ながら、早いテンポでパス交換をする新東のペース。山東は DF ラインでは落ち着いてボールを回せるが (敵が少ないから当たり前!)、ボランチ、トップの出来がイマイチで球離れが遅すぎて、**なかなかボールが回らない**。またディフェンスにおいても、**運動量不足のためボールへのアプローチが遅れ、敵に余裕を与えてしまう**ものだから、自陣深いところまで攻め込まれることが多い。そんな中、山東 GK 泰仁の位置が高いと見るや、ハーフライン付近から新東が山東ゴールに向けボールを蹴りこむ。するとそれがピタリをゴールを射止めるスーパーロングシュート。敵ながら天晴れ! のシュートで 2 失点目。3 点目は DF と GK の混乱から、訳のわからない形で失点 (試合後、新東の監督の話によれば「あれは絶対に新東のオフサイドだった」とのこと、GK が飛び出していたから DF 1 枚余っていてもオフサイドだったということか? とにかく山東ベンチからは遠くてよくわかりませんでした)。

結局、顧問の「もしかして」は最後まで仮定で終わってしまい、0-3。新東がベストメンバーではなかっただけに、とても悔しい敗戦となりました。新チームは幸先良く勝つことはできず、現実はやはりそんなに甘くはないことを実感。この敗戦を明日の糧としたいと思い、家路につきました。

明るく日は天皇杯1回戦。ultra 西置賜 FC という社会人チームと東陽の里グラウンドにて対戦。前日と同様のスタメンで臨む。試合前、球離れを早くしボールを動かす中で良い判断のための余裕を作り出そうと指示。また社会人相手だからといってビビることなく、ハードに戦えと指示。序盤、技術に勝る ultra が押し込む時間があるものの、体力と集中力に勝る山東 DF は敵の攻撃をしっかりブロック。また攻撃に転じるや、前日球離れの悪かった選手たちがシンプルにプレーすることで、攻撃にリズムが生まれる。決して悪い流れではなく、山東ペースとって過言ではない展開。ultra は技術があるものの、「現役時代」のようなしつこいプレーができないため、ワンプレー後の切り替えが遅く、最終ラインの選手以外カウンターについて来れない。「これは勝たなければいけない試合だ」と感じ始めた前半の後半、ultra の選手が右サイド（山東の左サイド）からファーサイドまで流れる素晴らしいクロスボール、それを GK と競り合いつつも勇敢にヘッド、ゴールネットを揺らす。山東、昨日に引き続き先制を許す。

後半は体力に勝る山東が攻め立てるシーンが多い。しかし肝心のときに**トラップ、パスという基本のプレーのミス**が多く、ゴールまで、というかシュートまで、なかなか辿りつけない。終盤になるに従い、ultra は完全に0-1のスコアを守りにかかる。守ってクリアを繰り返す中、ポスト直撃のシュートがあるなど山東が攻め立てるも、ゴールは遠い。交代出場の**賢祐**の右サイドからの突破、**大久保**の展開など見せ場を作るも、結局ノーゴールでタイムアップ。攻め続けただけに、何とも悔しい敗戦。結果的にみれば、**社会人の老獪な試合運び、ここぞというときに本領を発揮する技術の前に屈しました**。ただ、1回戦の結果を見るにユース世代のチームのほとんどが社会人に勝利していることからすると、山東も後に続きたかったです。

そんな中、シンプルにプレーする中で余裕を作り出すということ、社会人に対して臆することなく戦うこと、という試合前の二つの指示は、しっかり実行できたのではないかと思います。特に、どんなレベルの試合であれ、最終的に強いハートが勝負を分けるであろうことを考えると、臆することなく戦えたことは前向きに捉えてよいのではないかと思います。新チームはいろんな意味で、これから、なのでしょう。**初勝利を目指し、努力し続けます**ので、変わらぬご声援をお願いする次第です。

次節の連絡

Yリーグ第4節（山東にとっての4試合目）は、以下の通り。

7月4日(土)VS 鶴岡工業戦 鶴東サッカー場にて 12:00キックオフ

鶴工は県総体の雪辱をかけ立ち向かってくるでしょうから、弱いメンタリティでは初勝利はおろか簡単にやられてしまうでしょう。応援よろしくお願いします。